

まぶしい緑の葉の間から、濃いピンクの“つつじ”や“さつき”の花が顔をのぞかせています。つつじとさつきは見た目が似ていますが、咲く時期も違いますし、花の大きさや葉の形、おしべの数なども、違いがあるそうです。時の流れを忘れて、そんな植物の違いを見つけながら、ゆっくりと歩いてみるのも楽しいかもしれませんね。

さて、映画には、小説やアニメが原作となっているものが けっこう あります。櫛木 理宇の小説を映画化した『死刑にいたる病』や、直木賞や本屋大賞作家の辻村 深月の小説を実写映画化した『ハケンアニメ!』など、5月にも注目作が連続 公開されています。本屋大賞を受賞した作品も映画化されています。昨年の10月には、2019年の本屋大賞を受賞した、瀬尾まいこ 著『そして、バトンは渡された』が公開されました。

そこで、今年度、初のクイズです。先日、5月13日に、2020年に本屋大賞を受賞した、ベストセラー小説が映画化、全国公開されました。

父を病気で亡くし、母は蒸発。伯母の家に預けられた9歳の少女と、わずかな時間、少女とともに過ごした青年は、知らない間に、誘拐事件の被害者と加害者となっていた。真実は違う。しかし、周りに、少女の声は届かなかった。15年もの時が流れ、再会した二人。周りに理解されない苦しみを共有している二人だからこそ、わかり合える存在を必要とし、大切に思う。こんな愛のかたちもあるのか——多くの人が感涙した作品です。

そこで、問題です。上で紹介した、2020年の本屋大賞を受賞した作品は、次のうちのどれでしょう。

- ① 町田そのこ 著「52ヘルツのクジラたち」
- ② 辻村深月 著「かがみの孤城」
- ③ 凧良ゆう 著「流浪の月」

ヒントの本は、いちごのアイスクリームの表紙。書架の33、分類番号「913」（日本の文学）、本屋大賞のコーナーにあります。本屋大賞にノミネートされた作品も置いているので、いっしょに読んでみてください。

図書室からのお知らせ

6月から、**学年の制限なく全学年が利用できる、昼休みの図書室利用を試行します**。新型コロナウイルスの感染者数が少なくなってきたとはいえ、油断は禁物です。感染防止に努め、図書室を利用する際のルールやマナーを守って、みんなが気持ちよく、安心して利用できるように ご協力をお願いします。

- ☆ 入室、退室するときは、入り口近くに設置している消毒液で、手をきれいにしましょう。
- ☆ しっかりマスクをつけて、室内では大声で話さないようにしましょう。
- ☆ 近寄って会話をしたり、いっしょに同じ本を読んだりするのは“密接”になります。本を探するときも、近づきすぎないように注意して、決まった席で、本を読んだり、閲覧したりしましょう。



しっかり
消毒!



マスク
OK!



令和4年度 第68回「青少年読書感想文全国コンクール」
中学校の部の『課題図書』が届きました!

来室をお待ち
しています!

令和4年度、第68回「青少年読書感想文全国コンクール」の中学校の部の『課題図書』を紹介します。

「セカイを科学せよ！」 安田 夏菜 著

『ミックスルーツ』 多様な国や文化にルーツをもつ人々を指す言葉。



セカイを科学せよ!

研究テーマは

「ミジンコの1分間の心拍数と水温の関係」



藤堂ミハイル。中学2年。父は日本人、母はロシア人。小学校の頃、「オーベー」とからかわれて、相手を突き飛ばし、けがをさせてしまった。一俺ってナニモノなんだーそれ以来、目立たず、自己主張せず、多い方につく世渡りを身につけた。所属している“科学部 電脳班”は、実質、何もやっていない、楽な部活動。

そこへ、父がアメリカ人、母は日本人のミックスルーツ、山口アビゲイル葉奈が転校してきた。彼女は大の蟲好き。科学部に生物班を作って、あれこれと虫を持ち込み、キモい、危険だと生徒やPTAから非難を浴びるけれど気にしない。ついに、校長先生から活動停止の宣告が。

研究の結果を科学的にまとめて発表することができれば、活動停止が避けられる。タイムリミットは期末テストまで。ミハイルたち、電脳班のメンバーも協力し、研究を進めるのだが……。

「へーそうなんだ。」虫に関心のない人でも、虫の生態がわかって興味をそそられます。読後に、ミジンコの心臓の動きを、実際に見てみたいくなるでしょう。

「海を見た日」 M・G・ヘネシー 著

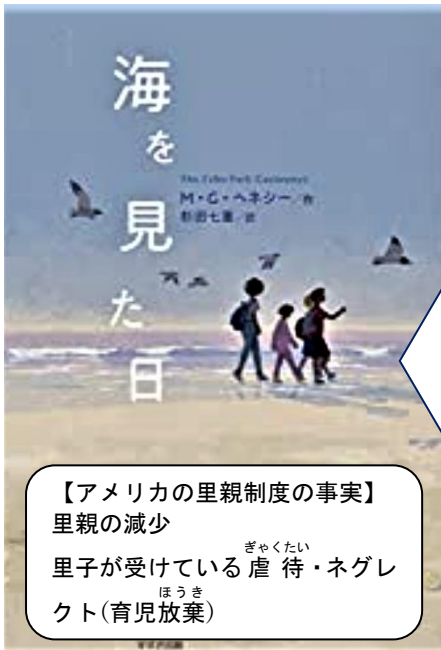
里親ミセス・Kは、仕事に明け暮れ。疲れ切っていて里親としての自信も意欲もない。そこに預けられている子どもたち。

ナヴェイアは最年長。ここから追い出されないように、ミセス・Kに気に入られるよう、ほかの子たちの世話や家の手伝いをしている。

ADHD(注意欠如・多動症)のヴィク。ほとんど何も話さないマーラ。そこへ、アルペルガー症候群(社会性、コミュニケーション能力の欠如、こだわりの強さなどを特徴とする発達障害の一つ)のクエンティンがやってきた。クエンティンはママに会いたいとパニックを起こす。

ヴィクがクエンティンをママに会わせる計画を立て、冒険が始まる。「観覧車に乗りたい。」もう二度と経験できないことかもしれない。4人みんなで乗った観覧車から見た海。それは子どもたちにとって、忘れられないひとときだった。

里子たちの、小さいけれど かけがえのない幸せ。感動の一冊です。



【アメリカの里親制度の事実】
里親の減少

里子が受けている虐待・ネグレクト(育児放棄)

「江戸のジャーナリスト 葛飾北斎」 千野 鏡子 著

葛飾北斎は引っ越し魔。人生で、93回も引っ越しをした。しかも、家は、ゴミ屋敷。家事もせず、料理もせず、着替えもせずに、同じ着物を着たきり。

北斎と言えば、「神奈川沖波裏」を代表とする『富嶽三十六景』や『富嶽百景』といった富士山の絵を思い浮かべるが、化け物や浦島太郎が竜宮城へ入るところの絵など、いろいろなものを描いた。私たちがよく知っている作品の多くは、なんと70歳を越えてから描かれたものだ。

自ら「画狂老人記」の雅号をつけたほど、画業にかける、すさまじい執念。わたしたちの知らない北斎に会えます。この本で紹介される絵を、北斎の作品集で確かめながら読むのも楽しいです。

